

Mike and Sandy Hartley Math, Science & Technology Complexで革新の20年を祝う

技術革新の遺産 - The Mike and Sandy Hartley Math, Science & Technology Complexは2003年8月23日に公式にオープンしました。学校の没入型テクノロジープログラムのデモンストラーションが特集された祝賀会が行われ、3Dスキャン、拡張現実、モーションキャプチャなどが披露されました。センターが開設された時点では、全国で6番目に統合度の高い学校のテクノロジーセンターとしてランク付けされました。今日、これらのスペースは数学、科学、そして私たちの革新的なテクノロジープログラムの拠点であり、現在の学生のニーズに応えるために設計され、将来のニーズにも常に適応しています。

ミッド・パシフィックは常に変化する教育のニーズに応える歴史があります。州内で初めて国際バカロレアプログラムを提供し、芸術学校を設立し、K-12向けに1人1台のiPadを提供し、MPXプログラムを開発しました。新世紀が迫る中、最先端のテクノロジーセンターを開発する計画が最優先事項として浮かび上がることは驚くことではありませんでした。

成功の土台を築くー 学校の成長の一環として、科学、数学と最新技術のための新たなスペースが必要とされました。「1997年に始まった建築の設計チームに参加できたことは幸運でした」と当時テクノロジー教師およびコーディネーターで現クブ・ホウ・アカデミーのディレクターであるマーク・ハインズ博士は回想しました。「3年以上にわたり、私たちは毎月会合し、夢を語り、ビジョンを共有し、現地訪問の報告をし、最先端の建築デザインについて広範に読みました」私たちの道のりを導いた指針の一つは、ジョー・ライス理事長からのこの声明でした:『古い建物をまた建て直すのではなく、50年後も学習の風景とその進化を知りながら、重要を持つ施設を建設してください。』」

ライス理事長のリーダーシップと理事会の支援のおかげで成功した資金調達キャンペーンの結果としてプロジェクトは2002年1月に起動しました。ハートリー夫妻は、ハリー・アンド・ジャネット・ワインバーグ財団、アサートン・ファミリー財団、およびハロルド・K・L・キャッスル財団とともに、その努力を率いた一群の恩人の中に含まれています。

「ジョー・ライスがミッド・パシフィックに対する彼の夢を共有してくれたとき、私たちはこれらの夢を実現させると扇動されました」とサンディ・ハートリー氏は語ります。「そのうちの 하나가数学、科学、技術の建物でした。私たちはハワイと本土にいくつかのコールセンターを持つ大規模な旅行会社を運営しており、コンピュータを使用していたので、これが未来の方向性であると知っていました」

リッキー '03 とレイチェル '03 ハートリーさんたちは、プロジェクトの20周年について思い返します。「私たちがシニアの時、両親は寄付のことを教えてくれ、建物の計画を見せてくれました。私たちはどちらも驚愕しました。当時、ほとんどの施設が時代遅れであり、科学と数学が

未来の先端であるというコンセプトはまだ浸透し始めていただけでした。この複合施設は、ミッド・パシフィックをまた一つレベルアップさせるのに重要な力を提供しました。もっと早く建設されていればみんなでそれを経験できたのにと冗談を言っていたのを思い出します。」

将来を見据えた計画: 成長のビジョン - この3つの建物から成る複合施設には、総面積39,000平方フィートで、14の数学と科学の教室、デジタルビデオスタジオ、遠隔学習センター、バイオテクノロジーラボ、ビデオ会議対応の会議室、エンジニアリング、計算科学、ロボティクス、デザインのためのゾーンが含まれています。これらの建物は変化を予想して設計されました。技術が進化するにつれて、空間もそれに追従し、生徒と教師のニーズに対応しています。

ポール・ターンブル学長のビジョンと支援者たちのおかげで、ミッド・パシフィックは「ディーパーラーニング」の教育法を導入し、学生たちに専門レベルのハードウェアとソフトウェアへのアクセスを提供することができ、彼らが卒業後に成功するために必要なスキルと経験を築くことができます。

教育技術ディレクターのブライアン・グランサム氏は、ワインバーグ・テクノロジー・プラザでの技術と学習スペースの進化を直接目撃してきました。「このセンターは、私たちの学生や教職員だけでなく、州内の教職員や行政の人々にとっても、技術応用と教育の進むべき方向を照らす光の灯台となってきました」とグランサム氏は述べています。「過去20年間で、技術は莫大な進歩を遂げ、この建物の空間も生徒と教師からの要望に応じて、先進の状態を維持するために調整されてきました」

開業から20年が経過した今でも、ハートリー・マス、サイエンス、& テクノロジー・コンプレックスはキャンパス入口近くの顕著な存在として残っています。「建物が2003年に開業した年に、私たちの双子の娘たちは卒業し、ハワイを離れてコロラドの大学に進学しました」とサンディ・ハートリーさんは振り返ります。「今日、私たちの6人の孫たちがミッド・パシフィックに通っており、もう2人がこれから入学する予定です」

「私たちが学校に在籍していた時にはこれらの機会がありませんでしたし、ハワイの多くの子供たちもまだその恩恵をあずかっていません。ミッド・パシフィックに通うことは、最先端の科学技術教育だけでなく、校内で繁栄する学術と芸術のプログラムにもアクセスできるという絶対的な特権です」とリッキーさんとレイチェルさんは述べ、複合施設の遺産が彼らの家族にとってどのような意味を持つかについてコメントしました。「私たちの子供たちがこの学校とコミュニティの一員であることに感謝しています。私たちの家族は、この複合施設が現在に、そして将来もミッド・パシフィックの学生たちに大きな夢を抱かせ、卒業後に教育を学び、自分の野望を追求するための入り口として機能していることを願っています」